

## ◆今期間のポイント

## ＜主要じょう乱の概要＞

- 11日は、冬型の気圧配置が緩む。
- 12日は、日本の東へ高気圧が移動し、日本海と本州南岸付近に低気圧が発生する。
- 13日は、低気圧が発達しながら日本の東へ進み、日本付近は冬型の気圧配置となるが、高気圧が東シナ海へ移動する。
- 14日は、高気圧が日本の南に張り出し、日本海が気圧の谷になる。
- 15日は、気圧の谷が日本付近を通過し、次第に冬型の気圧配置に変わる。

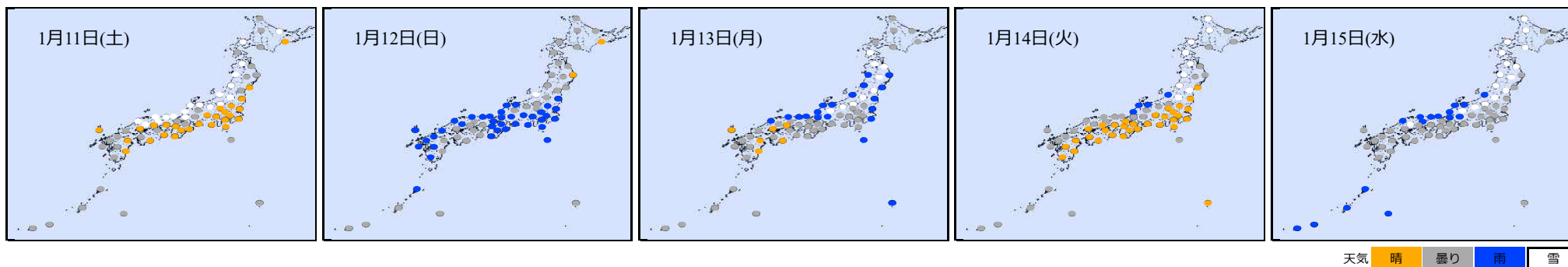
## ＜防災事項＞ 11時、17時発表の早期注意情報に合わせて当項目は修正する場合があります。

- なし。

※最新の早期注意情報、気象情報、台風予報も参照ください。

以下の資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する週間天気予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形式で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

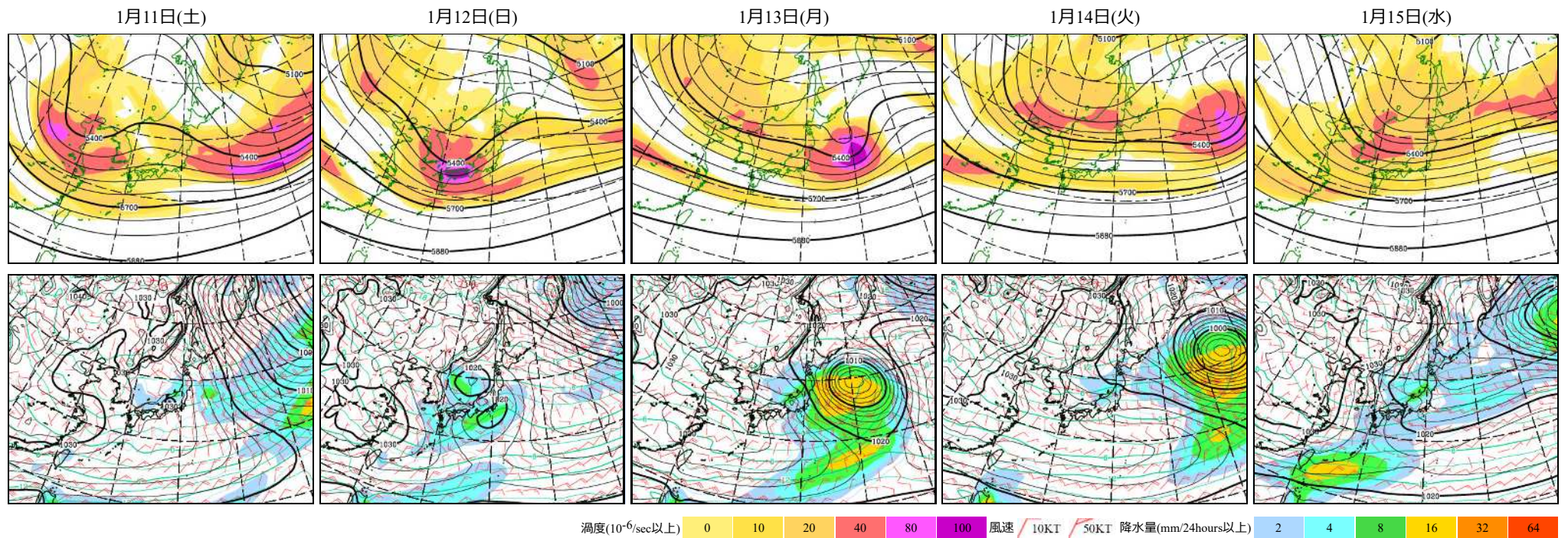
## ◆10時時点の3～7日目の天気予報案 (11時以降は気象庁HP等にて発表予報をご利用ください。)



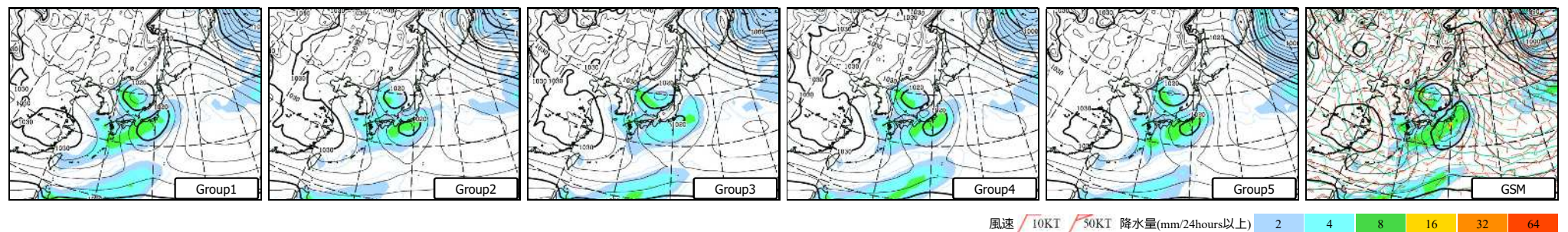
- 北日本と東日本から西日本にかけての日本海側は、曇りや雪または雨の降る日が多い。
- 東日本から西日本にかけての太平洋側は、晴れまたは曇りの日が多いが、12日から13日にかけては雨または雪の降る所がある。
- 沖縄・奄美は、雲が広がりやすく雨の降る所がある。



◆アンサンブル(ENS)平均予想図 上図：500hPa高度線、渦度 下図：海面気圧、地上風、前24時間降水量(21時)



◆1月12日のENSクラスター平均(グループ1~5)とGSMの地上予想図 海面気圧、地上風(GSMのみ)、前24時間降水量(21時)



◆昨日資料からの変化と予想のばらつき

- 最新のアンサンブル資料 (ENS) は、12日から13日にかけて本州南岸から日本の東へ進む低気圧が明瞭となり東進が少し早くなった。
- スプレッドは期間の終わりに大きくなり、5400mの特定高度線のばらつきも大きくなる。
- 12日は、本州南岸を進む低気圧が明瞭となったため、東日本太平洋側を中心に降水確率ガイダンスの値は大きくなった。

◆ENSからの修正点とサブシナリオ等の補足事項

- 予報は、おおむね最新のENSを基に考える。